

大学の定期試験の準備状態に対する認知と成績予期 ー自由記述データにもとづくカテゴリ分けー

中川華林（法政大学大学院）

キーワード：定期試験，準備状態の認知，成績予期

問題と目的

これまで，学習者が定期試験というイベントに対して抱く感情について様々な検討がなされてきた（e.g., Pekrun, 2009）。しかし，実際の教育場面において，学習者の感情に影響を及ぼすことが想定される準備の認知（試験準備がどの程度できているか）と，成績の予期（試験の結果自分がどの程度の成績を修めるか）の影響に関する検討は不足している。そこで，本研究では，それらの影響を検討する前提として，学習者がどのような根拠にもとづいた認知・予期を抱いているのかに関する自由記述データから，その実態を明らかにする。

方 法

調査対象者 大学2年生69名を対象とした。
使用尺度 回答の際には，前提として，試験の直前（それ以降，ノートを見返したり，資料を確認したりすることができない状況）における思考を問うことを教

示した。質問紙は，試験準備が万端だ（不足している）と思う場面と，試験の結果がA以上（C）をとると思う場面の各4場面について，と場合と，そのように考える根拠を尋ねるものであった。

結果と考察

場面ごとの代表的な記述カテゴリ（記述数が5以上のもの）と，項目例を Table 1, Table 2 に示す。準備においては万端・不足共に同様のカテゴリが得られたが，準備万端独自のカテゴリとして，漠然とした自信に関する記述がみられた。成績においては，Cの場合，A以上の場合にはあまりみられなかった試験以外の条件に関するカテゴリが得られた。今後は，これらの自由記述データをもとに，質問紙調査におけるより現実的な場面想定をおこない，試験期間中の学習行動などの変数との関連をみていく必要があるといえる。

Table 1 準備状態に対する認知のカテゴリ分けと記述例

予期の種類	記述カテゴリ	記述数 (%)	記述例
準備万端	準備の時間・回数・量	28 (41.18%)	何度も復習をして，これ以上勉強しなくてもいいだろうと思っているとき
	授業の理解	13 (19.12%)	頭の中で授業内容がしっかりと理解できている状態にあるから
	試験範囲の網羅	11 (16.18%)	試験範囲を全て勉強したから
	自信	6 (8.82%)	どんな問題がきても解く自信があるから
	その他	10 (14.71%)	自分がやりたいと考えていた試験勉強がすべてこなせたから
準備不足	準備の時間・回数・量	36 (52.94%)	試験に対する準備の時間が少なかったから
	試験範囲の網羅	11 (16.18%)	前日までの勉強で試験範囲の全てを復習し終わらなかったから
	授業の理解不足	10 (14.71%)	今までしてきたことをちゃんと理解できていないから
	その他	11 (16.18%)	試験にどのような問題出るのか，全く見当がつかないから

注…%は，総記述数を分母とした場合に，各記述数が占める割合を示す。総記述数は，準備万端・不足ともに68であった。

Table 2 成績予期に対する認知のカテゴリ分けと記述例

予期の種類	記述カテゴリ	記述数 (%)	記述例
A以上	準備への自信	31 (46.97%)	きちんとテストにむけて，自分が十分だと思えるぐらいに勉強をできたから
	授業の理解	19 (28.79%)	毎回しっかりと授業を聴いて理解しているから
	試験の難易度・範囲	6 (9.09%)	事前に出題範囲を明らかに示してもらっているとき
	その他	10 (15.15%)	その講義の試験が簡単だというわさを聞いているから
C	準備への自信のなさ	35 (53.03%)	テスト勉強があまりできていないから
	授業への理解不足	11 (16.67%)	授業の内容を理解できていないから
	試験以外の条件	6 (9.09%)	遅刻や欠席が多く，未提出の課題があること
	試験の難易度・範囲	5 (7.58%)	出題範囲を提示されずにいたとき
	その他	9 (13.64%)	先生の評価が厳しいから

注…%は，総記述数を分母とした場合に，各記述数が占める割合を示す。総記述数は，A以上，C以上ともに66であった。